

今月のことば

自分勝手な
世界を創り出し
その中で
傷つけ合っている
それを
迷いという

(小池秀章)

龍谷大学非常勤講師

こいけひであき
小池秀章

仏教では、「私たちは迷いの世界を生活している」と言います。しかし、正確には、「迷いの世界」という世界があつて、その中で生活しているのではなく、私たちが勝手に「迷いの世界」を創り出し、その中で生活しているのです。

仏教で迷いと言つた場合、「今日の夕食は、何を食べよう」とか、「今度の休みは何をしよう」といったようなことを言っているのではありません。仏教で言う迷いとは、正しく物事を見ることが出来ない状態のことです。「正しく」とは、「ありのままに」ということです。正しく(ありのままに) 見ることが出来ないということとは、自己中心的に、自分勝手に見ているということです。

例えば、人を見た時、「いい人・悪い人・どちらでもない人」というように見ます。しかし、いい人や悪い人がいるのではなく、自分にとって、いい人が悪い人なのです。そのように私たちは、常に自己中心的に人を見て、「いい人・悪い人」「好きな人・嫌いな人」、更には、「敵・味方」というように、自分勝手に判断しているのです。そして、勝手に創り出した「いい・悪い」「好き・嫌い」「敵・味方」という世界の中で、お互い傷つけ合つて生活しているのです。

そのような私たちに、迷っていることに気づかせ、正しい方向へと導こうとはたらいてくださっているのが、仏さまなのです。

合掌